

反義語研究の応用*

—コーパスを利用して類義語を反義語関係から考察する試み—

清海節子

1. はじめに

本稿では、コーパスを使用した反義語¹⁾研究の応用について検討する。最近の反義語の研究にコーパスが利用されているが、類義語の特性を明確化するためにも、反義語との関連性をコーパスで調査することに意義があると提案する。一つの試みとして、「うれしい」「たのしい」と「のぼる」「あがる」という類義語ペアの違いについてコーパスを使用して反義語関係から考察し、それぞれの特性を見つけ出して比較する。

2節では、反義語の特徴を把握する。3節では、反義語の定義や種類について先行研究を紹介する。4節は、コーパスを使用した反義語の研究を検討する。5節では、コーパス利用の反義語研究が類義語研究にも応用できることを提案し、「うれしい」「たのしい」と、「のぼる」「あがる」の類義語ペアを反義語関係から分析し比較する。最後の6節では、結論が述べられる。

2. 反義語の特徴

最初に、反義語が実際に用いられた例を見ることにしよう。Charles Dickensは、*A Tale of Two Cities*（『二都物語』）の最初の部分で、反義語を非常に効果的に使用している。以下に、その部分を日本語訳とともに引用する。反義語関係にあるそれぞれの語には、筆者が下線を入れた。

It was the best of times, it was the worst of times, it was the age of wisdom, it was the age of foolishness, it was the epoch of belief, it was the epoch of incredulity, it was the season of Light, it was the season of Darkeness, it was the spring of hope, it was the winter of despair, we had everything before us, we had nothing before us, we were all going direct to Heaven, we were all going direct the other way – in short, the

period was so far like the present period, that some of its noisiest authorities insisted on its being received, for good or for evil, in the superlative degree of comparison only.

(下線は、引用者)

それはすべての時世の中で最もよい時世でもあれば、すべての時世の中で最も悪い時世でもあった。叡智の時代でもあれば、痴愚の時代でもあった。信仰の時期でもあれば、懐疑の時期でもあった。光明の時節でもあれば、暗黒の時節でもあった。希望の春でもあれば、絶望の冬でもあった。人々の前にはあらゆるものがあるのもあれば、人々の前には何一つないのもあった。人々は皆真直に天国へ行きつつあるのもあれば、人々は皆真直にその反対の道を行きつつあるのもあった。——要するに、その時代は、当時の最も口やかましい権威者たちのある者が、善かれ悪しかれ最大級の比較法でのみ解さるべき時代であると主張したほど、現代と似ていたのであった。(1936 佐々木直次郎訳、下線は引用者)

下線部から明らかであるが、(1)で示されるように9個の対比が見られ、混乱や矛盾や切羽詰まった状況が表されていると考えられる²⁾。

- (1) best—worst (よい—悪い) wisdom—foolishness (叡智—痴愚)
 belief—incredulity (信仰—懐疑) Light—Darkness (光明—黒)
 spring—winter (春—冬) hope—despair (希望—絶望)
 everything—nothing (あらゆるものがある—何一つない)
 Heaven—the other way (天国—その反対の道) good—evil (善—悪)

また、反義語に関連して、これまでに多くの言語連想テストがされている。例えば、Clark (1970) は、被験者に、刺激の単語を与えて、最初に頭に浮かんだ言葉を言わせたが、与えた単語に一般的な反義語がある場合、被験者は、何にもまして、反義語を答える傾向があると指摘している。例えば、‘boy’ という単語を与えると、‘girl’ が返答される可能性が高いということである。ここで見逃してはならないことは、‘boy’ と ‘girl’ の両語は、「人間」であって「大人でない」という意味特性を共有している点であろう。つまり、反義語は、全く関係のない意味でなく、逆に意味の共通点が認められる語の間で成立する関係を表す語である。この点について、Cruse (1986:197) が分かりやすく説明をしている。少々長いが以下に引用し、特

に注目する部分に下線を施した。

Opposites possess a unique fascination, and exhibit properties which may appear paradoxical. Take, for instance, the simultaneous closeness, and distance from one another, of opposites. The meanings of a pair of opposites are felt intuitively to be maximally separated. Indeed, there is a widespread idea that the power of uniting or reconciling opposites is a magical one, an attribute of the Deity, or a property of states of mind brought about by profound meditation, and so on. The closeness of opposites, on the other hand, manifests itself, for instance in the fact that the members of a pair have almost identical distributions, that is to say, very similar possibilities of normal and abnormal occurrence. It is also reflected in the frequency of speech errors in which the intended word is substituted by its opposite. Philosophers and others from Heraclitus to Jung have noted the tendency of things to slip into their opposite states; and many have remarked on the thin dividing line between love and hate, genius and madness, etc. The paradox of simultaneous difference and similarity is partly resolved by the fact that opposites typically differ along only one dimension of meaning: in respect of all other features they are identical hence their semantic closeness; along the dimension of differences, they occupy opposing poles, hence the feeling of difference. (下線は引用者)

反義語は、ユニークな魅力があり、逆説的にみえる性質を呈している。例えば、反義語の間で、隔たりと近さが同時にある。反義語ペアの意味は、最大限に離れていると、直感的に感じられる。実際、正反対の意味を統一したり、調和させる力は、魔法のようで、神通力であるとか、深い瞑想によってもたらされる心の状態のような性質である等と広く考えられている。一方、反義語が近似していることは、例えば、ペアのメンバーがほとんど同じ分布、つまり、通常でも変則的にも非常に似通って発生する可能性があるという事実に現れている。また、反義語が近似していることは、意図された単語が、言葉の言い間違えで、しばしば、その反義語で代わられるということに、反映されている。ヘラクレイトスからユングまで、哲学者たちは、モノがいつの間にか逆の状態になる傾向があることに気づいているし、多く人々が愛と憎悪や、天才と狂気などの間の境界線が弱いものであると述べている。同時に、違っていて、類似しているという逆説は、反義語が、意味の一つの次元で典型的に異なるという事実で幾分説明される。つまり、他

の特徴では、同じであるので、意味的に近いことになり、相違点の次元では、反義語が両極にあるので、そのため、違った感じがする。（訳と下線：清海）

上の説明を要約すると、次のようになる。反義語のペアは、違っていると同時に類似しているという逆説的な性質があり、直感的には、意味が最大限に離れていると感じられる一方で、反義語の分布がほとんど同じであったり、言い間違えに反義語が選ばれたりする。この理由は、反義語が意味の一つの次元では両極端にあるが、他の次元では同じであると説明することが可能であるからだ。

さらに、反義語と言うと、一般に、「良い/悪い」「上/下」「勝ち/負け」「良い/悪い」等があげられるが、これらは良い例であると考えられ、一方で、「普通/悪い」「赤/青」等、あまり良くないと思われる例もあることを認識することが重要である。Murphy (2003: 11) は、この点に関して次のように述べている：“Language users can intuitively sort “good” (or prototypical) antonym pairs from no-so-good ones and downright bad ones.”（「言語使用者は、『良い』（または、典型的な）反義語をあまり良くないペアや、まったく悪いペアから直感的に区別することができる。」）換言すると、反義語は、意味的に反対であるといっても、それほど単純に割り切れない性質であることは注目すべきであり、例えば、英語の反義語のペアの‘rich/poor’（「金持ちの/貧乏な」）とほぼ同じ意味である ‘affluent/broke’（「裕福な/文無しの」）のペアは、一般的に反義語とは言えない。同様に、‘large/small’, ‘big/little’ は、反義語のペアであるが、‘large/little’ は、通常反義語のペアとは言いがたい。このように、規範的反義語（‘canonical antonyms’）（例：‘hard/soft’「固い/柔らかい」）と、周縁的反義語（‘peripheral antonyms’）（例：‘rigid/malleable’「固定した/順応性がある」）と言えるような二つの種類に分類することができる。

以上、Dickensが、反義語を矛盾や混乱を表すために使用されている実例を見た後、反義語の本質に、意味の共通性が関わっているということをCruseの説明で確認した。反義語ペアは、相対する意味であると言っても、無関係の意味で成り立つのではなく、逆に、共有する意味要素が多く含まれていることを十分に認識することが重要である。さらに、反義語といっても、規範的なものから、周縁的であるとみなされるものまで、性質が一律ではないことも確認した。

3. 反義語の分類

反義語と一言と言っても、定義が確立しているわけではなく、さまざまな分類がされている。そこで、まず、森田（1996）、池上編（1996）の分類を検討してから、Cruse（1986）を中心に他の分類を見ることにする³⁾。

3.1 森田（1996: 199-229）

森田（1996:199-229）は、「反義語」と「対義語」とを分けている。反義語については、次のような定義と例をあげている。

(2) 反義語：意味特徴の面である1点が対照的な正反対の関係にある場合

例： 白—黒　善し—悪し　海—山　山—谷

「海—山」の関係は、「海の幸、山の幸」「海の物とも、山の物ともつかない」という表現にみられるとし、また、「山—谷」は、「人生、山あり谷あり」という表現で、絶頂期とどん底状態を指すことから反義語であると説明している。一方で、森田の対義語の定義と例を見てみよう。

(3) 対義語：指示対照が明らかに異なるが、意味特徴の点では正反対とは認められない場合

例：山—川

兄—弟，姉—妹（年齢の違い）

兄—姉，弟—妹（性の違い）

上の例で、「山—川」は、「今は、山中、今は川」というように使用される。また、「兄—妹」、「姉—弟」は、年齢と性という2点で違うことになるので対義語ではないと指摘している。

森田は、「反義語」にとって、程度性を表す語彙（「大きい/小さい」等）は、本来両極を表すので反義関係を結びやすいと述べている。また「対義語」は、複数の語が共通の意味場をもつセット語を形成し、同時に両者の意味特性が1点で異なっただ対立する関係だと考えている。森田は、対義語をさらに分けているが、分類基準が明確であるとは考えにくいので、ここでは取り上げない。

3.2 池上(編)(1996:59-60) :

池上(編)(1996)は、反義語を次のように3つに分けている⁴⁾。

(4) (i) 相補的關係 (ii) 段階的尺度 (iii) 反対關係

まず、相補的關係は、2語の間に中間的段階がない場合を指す。例として male—female「女性—男性」、present—absent「いる—いない」などがある。次に、段階的尺度に関しては、連続した尺度に基づくもの、例えば、large—small「大きい—小さい」、long—short「長い—短い」、old—young「老いた—若い」等がある。尺度が連続しているということは、絶対的でないということで、次のような表現が可能になる。

(5) 'A small elephant is a large animal.' (「小さな象は大きな動物だ。」)

また、尺度の高い方が無標('unmarked')になるのが特徴である。例えば、通常年齢を聞く場合には、'How old are you?'と言って、程度が低い'youth'ではなく、高い方を表す'old'が使用され、低い方から高い方までどの年齢でも指す。

反対關係は、ある種の方向性に基づくものと考え、次の二つの例が挙げられている。

(6) (i) come—go, arrive—depart

(ii) buy—sell, husband—wife, right—left

(6i)は、ある基準点に向かうか離れる關係を表し、(6ii)は、同一の出来事や關係を違った方向から捉えていると考えられる。

3.3 Cruse (1986)

次に、Cruse (1986)の分類をみることにする。反義語の最も基本的で重要な分類は、「非段階的反義語⁵⁾」('Non-gradable antonymy')と「段階的反義語」('Gradable antonymy')であるが、Cruseは、この二つの分類について、それぞれ詳しく考察している。

非段階的反義語は、「相補語('complementaries)」から成ると言える。相補語

は、「A か B」の関係で、例えば、「女性/男性」「生きている/死んでいる」「結婚している/未婚である」がある。Cruse (1986: 201)によると、非段階的反義語の下位範疇には、三つ組 ('triplets') が含まれると述べている。「相補語」は、一般的に形容詞か動詞であるが、動詞に限って次の4種類があると述べ、次の例のように、最初の語が、後の2語の相補語の領域 ('domain') を表している。

- (7) (i) reversives (逆関係) ----- be born: live: die (生まれる : 生きる : 死ぬ)
(ii) interactives (相互作用) ----- command: obey: disobey
(命令する : 従う : そむく)
(iii) satisfactives (満足関係) ----- compete: win: lose
(競争する : 勝つ : 負ける)
(iv) counteractives (反作用) ----- attack: defend: submit
(攻撃する : 防御する : 降参する)

上のような下位の分類は非常に限定されたものであるという問題点があると言えよう。

次に、段階的反義語であるが、「AでもBでもない可能性があるもの」つまり、互いに相容れないものではないということの説明される。例えば、「金持ちである/貧乏である」という反義語関係は、金持ちでなければ、貧乏であるとは言えない。なぜなら金持ちでも貧乏でもないということもあり得るからである。また、次のように副詞で修飾することができる。

- (8) とても/かなり/非常に うれしい。

一方、非段階的反義語は、修飾すると意味が逸脱する。

- (9) #とても/かなり/非常に 生きている/死んでいる。

無標 ('unmarked') の語が段階的性質の程度を描写するのに使用される。無標とは、意味的に中和した偏りがない意味を表し、より一般的に使用される。'How long...?' と尋ねると、関連するモノ/コトは、長いかもしれないし、短いかもしれない。それに対し、有標 ('marked') は、意味的に偏りがあることを表す。'How short...?'

はその例で、‘short’は有標であるので、この疑問文から、質問されたモノ/コトは、短いという前提になる。日本語でも、低さ、高さを尋ねる時は、「どれくらいの高さですか」が一般的であり、「どれくらいの下さですか」は、稀である。英語でも、無標である *long/big/high* が ‘How long/big/high is it?’ という疑問文に一般的に使用される。

Cruse (1986:206-7) は、段階的反義語を三つのグループに下位範疇化している。その説明のために、下に示すように、2種類の比較級があると主張している。それらは、疑似比較級(‘pseudo-comparative’)と真性比較級(‘true-comparative’)である。

(10) (i) 疑似比較級

例えば、あるモノが長いと言うことができる場合、他のモノとの比較で、短いとも言える。

例：「これは長いが、あれと比べると短い。」

(ii) 真性比較級

例えば、熱いと言える場合、他のモノと比べて、冷たいと言えない。

例：「#このコーヒーは熱いが、そのココアより冷たい。」

(10)で示した疑似比較級と真性比較級と呼ばれる2種類の比較級を考慮に入れて、Cruseは、段階的反義語を以下の3つのグループに分類している。

(11) Group I : Polar Antonyms (極性反義語)

反義語のペアそれぞれが疑似比較級になる。

例：It’s short, but it’s longer than the other one.

It’s long, but it’s shorter than the other one.

このグループに属する反義語ペア：

heavy/light, fast/slow, high/low, deep/shallow

Group II : Overlapping Antonyms⁶⁾ (部分重複反義語)

反義語のペアの一つは、疑似比較級になるが、もう一つは、真性比較級になる。

例：‘John’s a dull lad, but he’s cleverer than Bill.’

‘?Bill’s a clever lad but he’s duller than John.’

このグループに属する反義語ペア：

good/bad, pretty/plain, kind/cruel, polite/cruel

Group III : Equipollent Antonyms (等価反義語)

両語とも有標 ('marked') で、ペアの両方が真性比較級になる。

例：? It's hot today, but it's colder than yesterday.

? It's cold today, but it's hotter than yesterday.

このグループに属する反義語ペア：

nice/nasty, sweet/sour, proud of/ ashamed of, happy/sad

さらに、Cruse (Croft and Cruse 2004:170-1) は、認知言語学の見地から、上の分類を「一段階の体系」('monoscalar system') と「二段階の体系」('biscalar system') に分け、二段階の体系には、離接的 ('disjunct'), 並行的並行的 ('parallel'), 部分重複 ('overlapping') の3つの基本的タイプが含まれると述べている。

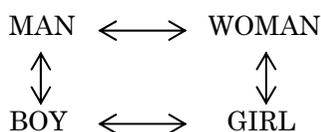
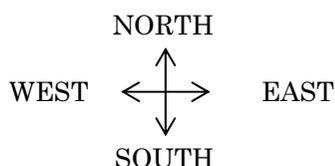
3.4 その他の反義語

最後に、段階的反義語と非段階的反義語のどちらにも属さない「相互反義」と「多重排除」について紹介する⁷⁾。まず「換位性」('converseness') と呼ばれる相互反義語 ('reciprocal antonyms') があり、次のように、「大家/賃借人」で示されるような関係が観察される。

(12) XはYの大家である。→YはXの賃借人である。

他の例：上/下 与える/受け取る 借りる/貸す 売る/買う
夫/妻 (医者/患者)⁸⁾

また、「多重排除」('multiple incompatibility') は、ボーダーライン上の反義語とみなされ、これに当てはまるものは、夏/冬, 北/南, A~Z (連続), 曜日 (循環的) 等が考えられる。Lyons (1977:286) は、多重排除の下位クラスとして、(13)の図で示されるように、4語のそれぞれがその中の2語と反対である orthogonal (直交) と一方向で反対の関係が見られる antipodal (正反対) とを区別している。

(13) orthogonal (直交)antipodal (正反対)**3.5 従来研究の問題点と新たな方法**

以上この節で俯瞰したこれまで反義語の分類は、それぞれの学者の直感を基に、各々の分類や下位分類がされてきた。また、特殊で数少ない例のための下位分類もされており、分類の数がきわめて多くなってきている。そこで、次の節で取り上げる Jones (2002) は、反義語研究に、コーパスデータを使用することを提案した。Jones は、コーパスを利用する方法は、一人の直感でなく、何千人もの直感に入りこめることができる上に、言語がダイナミック(動的)で、進化しているという側面から反義語を観察できる利点もあると主張している。

4. コーパスを使った反義語の研究**4.1 Jones (2002)**

Jones (2002) は、新聞をコーパスとして英語の反義語を分析した。データからディスコース(言説・談話)の機能を分類し、反義語のペアの共起は、単にコントラストを強調するというだけでなく、他にもいくつかの機能があることを発見した。特に、「付随反義語」(‘ancillary antonym’)と、「等位反義語」(‘coordinated antonym’)と呼ばれる二種類の機能が注目される。

新聞は、既存の新聞の中ではもっとも新しいイギリスの高級紙である『インデペンデント紙』(The Independent: 1988 10/1~1996 12/31)を選び、コーパスとしては、大規模なコーパスである約8千万語を使用した。そしてサンプルとして、反義語が共起している3000文を考察している。品詞の割合は、形容詞60%以上、名詞10%

以上、動詞10%以上、副詞10%以上とし、250文以上が、非段階的反義語（例：‘alive/dead’）であり、250文以上が、形態論上関連のあるもの（例：‘officially/unofficially’）にした。また、サンプルサイズはできるだけ共起の頻度を反映するようにした。実際に、最近の反義語である‘gay/straight’を含む56ペアが選ばれた。以下に品詞別にその例の一部をあげる。

- (14) 名詞 — ‘advantage/disadvantage’ ‘fact/fiction’
形容詞 — ‘active/passive’ ‘bad/good’ ‘heavy/light’
動詞 — ‘agree/disagree’ ‘attack/defend’
副詞 — ‘directly/indirectly’ ‘explicitly/implicitly’

われわれが反義語の機能を考えるとき、尺度の両極の価値を表すため、つまり、対立を際立たせる働きだけがあるように予想しがちである。しかしながら、Jones は、以下のような異なった8機能があることを発見した（括弧には全体で占める割合がパーセントで示されている）。

- | | |
|---------------------------------|---------|
| (15) Ancillary Antonymy 「付随反義語」 | (38.7%) |
| Coordinated Antonymy 「等位的反義語」 | (38.4%) |
| Comparative Antonymy 「比較反義語」 | (6.8%) |
| Distinguished Antonymy 「分類反義語」 | (5.4%) |
| Transitional Antonymy 「移行反義語」 | (3.0%) |
| Negated Antonymy 「否定反義語」 | (2.1%) |
| Extreme Antonymy 「極度反義語」 | (1.3%) |
| Idiomatic Antonymy 「慣用句反義語」 | (0.8%) |
| Others 「その他」 | (3.5%) |

(15)から明らかであるが、最初の二つ「付随反義語」と「等位的反義語」は、他の機能に比べて、きわめて割合が高い。そこで、Jones は、反義語を以下のように定義をしている（Jones, 2002:179）。

- (16) Antonyms are pairs of words which contrast along a given semantic scale and frequently function in a coordinated and ancillary fashion such that

they become lexically enshrined as ‘opposites’. (「反義語とは、ある意味の尺度で対比される二語であり、「反対語」として語彙的に認められるように、しばしば付随的で等位的な様式で、役目を果たす。)」)

以下「付随反義語」と「等位的反義語」の機能について説明し、残りの機能にかんしては、それぞれ例を以下に挙げることにする⁹⁾。まず、一番多く見つけられた機能の「付随反義語」は、反義語が使用されている文で、それに付随して別のペアの語彙が反義語的に使用されている場合を指す。次の文を考えてみよう。

(17) This is a *rich country* with *poor people*.

「これは、貧しい人々がいる金持ちの国である。」

上の文では、‘rich/poor’が反義語であるが、それに付随していて本来反義関係ではない‘country/people’も‘rich/poor’の関係から、第二の意味の対立が創造されている。別の例を次に挙げる。イタリック体は反義語ペアを表し、下線が施されている語彙は、それに付随して意味の対立が生じたペアである。

(18) *Stamps* are *popular* but *collecting* is *unpopular*.

「切手は人気があるが、収集することは人気がない。」

I *love traveling* but *hate arriving*.

「私は旅行することは大好きだが、到着することは大嫌いだ。」)

次に、二番目に割合が高い機能である「等位的反義語」は、日本語で「一も一も」と表現されることが多い反義語である。具体的には、‘married or unmarried’「既婚者も未婚者も」、‘good or bad’「よくも悪くも」のように、すべてを含むという総括的な意味を表現するために使用されている例が多く見つかっている。例えば次の例では、技術があるものから、ないものまで総てを含む労働者を表すために反義語が用いられている。

(19) ‘The company’s policy is to recruit *skilled* and *unskilled* workers’

「その会社の政策は、技術がある労働者から技術がない労働者まで、
(すべての労働者)を勧誘することである」

英語で、反義語ペアによって総括的な意味を表す構文は次のようなものがある。

- (20) ‘both X and Y’ ‘either X or Y’ ‘neither X nor Y’
‘X and Y alike’ ‘X as well as Y’ ‘whether X or Y’

残りの6つの機能それぞれの例を以下に挙げる。以下の例で、英文の斜体の部分が反義語である。

- (21) (i) 「比較反義語」

例：Those who *succeed* more than they *fail* are all different.

「失敗するのではなく、成功する人々は、すべて異なっている。」

- (ii) 「分類反義語」

例：The gap between *rich* and *poor* has widened.

「金持ちと貧乏人のギャップは拡大した。」

- (iii) 「移行反義語」

例：It was trying to make the transition from *old* to *new* technology.

「それは、古い技術から新しい技術へと移行しようとしていた。」

- (iv) 「否定反義語」

例：If you look at *employment*, not *unemployment*, that too fell in the first quarter of the year.

「もし解雇でなく雇用に注目しても、それも第一四半期に減っていた。」

- (v) 「極度反義語」

例：...throughout the year except when the soil is too *wet* or too *dry*

「地面があまりにも湿っているか乾燥しているか以外一年を通して...」

- (vi) 「イディオム反義語」

例：Easy come, easy go 「悪銭身に付かず」

その他の発見としては、品詞の種類や、段階的であるか非段階的であるかどうかによって反義語の機能が決定されることはないこと、またデータの中では、‘good/bad’, ‘female/male’, ‘high/low’, ‘peace/war’, ‘poor/rich’, ‘private/public’ の6ペアが

「良い」反義語であると認められたこと、短い形態の反義語の方が長い反義語の前に来る傾向があること等が挙げられる。また、この研究の問題点は、新聞からのコーパスデータを使用しているのに、口語のデータが入っていない。従って、一般的な言語を扱ったとは言えないと述べている。

4.2 Muehleisen and Isono (2008)

Muehleisen and Isono (2008) は、日本語の反義語について、コーパスを使用して調査した。彼らの調査によって、英語を検討した Jones (2002) や、スウェーデン語を扱った Willners (2001) が発見した反義語の機能が日本語にも見つけられるという結論に至った。彼らはコーパスとして、2億5300万語を含む ‘the Leeds Collection of Internet Corpora’ を使用し、次にあげる基本的な形容詞反義語関係の12ペアを研究対象に選んだ。

- (22) 浅い/深い 小さい/大きい 近い/遠い 古い/新しい 太い/細い
 広い/狭い 暗い/明るい 長い/短い 重い/軽い 多い/少ない
 高い/低い 強い/弱い

彼らの調査の結果、「付随反義語」は 54%で、英語と同様に一番多い機能である。一方、「等位反義語」は、英語では 38~9%だが、日本語は 13%でかなり低い数字だった。この理由について Muehleisen and Isono は、Jones のコーパスの性質や量の違い等の理由が考えられる上に、今回形容詞だけ扱ったということが原因かもしれないと述べている。さらに、彼らは、A か B かどちらか選択するための機能「離接反義語」(‘Disjunctive Antonym’) と呼ばれる新しい機能を発見した。この機能は、Jones and Murphy (2005) の「疑問反義語」(‘Interrogative Antonym’) に似ていると言う。これら3種類の機能の日本語の例を次にあげる。下線の部分が反義語である。また、付随反義語の例文で斜体の語は、二時的に反義関係が生じたペアである。

(23) (i) 「付随反義語」

例：韓国人は、相変わらず多いが、予想したよりも日本人は、少なかった。

(ii) 「等位反義語」

例：浅いところだけでなく土の中の深いところからも出て来るんだ。

(iii) 「離接反義語」

例：それが「新しい」か「古い」かを判断する方法がない。

さらに、日本語で反義語が発生する構文には、次のようなものがあると言っている。

(24) 反義語ペアのよく発生する構文

「X も Y も」 (等位反義語) 「X か Y か」 (離接反義語)

4.3 まとめ

反義語の研究は、学者各々の直感でそれぞれの分類がされてきた結果、分類の種類が多く複雑になってきている。Jones (2002) は、反義語研究に、何千人もの直感に入りこめることができるだけでなく、言語が動的であるという特性を反映するコーパスデータを使用することを提案し、新聞をコーパスとして英語の反義語を分析した。データからディスコースの機能を分類し、反義語のペアの共起は、単にコントラストを強調するというのではなく、「付随反義語」と「等位的反義語」を含むいくつかの機能があることを発見した。また、Muehleisen and Isono (2008) は、日本語の反義語をコーパスで調査し、英語やスウェーデン語で発見された機能と同様の機能を発見した。これらの研究は、先行研究では見過ごされてきた反義語の機能を明るみに出したという点で、価値が認められる。

5. 反義語関係から見た類義語

反義語をコーパスデータで分析することは、意義があるということを前節でみたが、次にその応用について考えていく。ここでは、類義語の研究に応用することを提案する。その試みとして、二種類の類義語ペアである「ウレシイ」「タノシイ」と、「アガル」「ノボル」を比較するために、それぞれの反義語関係について、コーパスデータを基に考察を試みる。

5.1 「ウレシイ」と「タノシイ」

「ウレシイ」と「タノシイ」という類義語の違いについての研究は、山田 (1982)、森田 (1989)、藤田 (1991)、西尾 (1993)、菊地 (2000) 等の先行研究がある¹⁰⁾。藤

田は、誘因が主体に認識されるのが「ウレシイ」で、されにくいのが「タノシイ」であると述べ、山田は、「ウレシイ」は「ことがらの認知」が誘発要因であるので、受動的であるが、「タノシイ」は能動的であると論じている。それに対して、菊地は、「タノシイ」は「時間の過ごし方」を問題にするという特徴が本質的で、誘発要因があるかないかは重要ではないと主張している。菊地の考えが最も説得力があると思われるので以下要約する。

最初に、菊地(2000)の「ウレシイ」と「タノシイ」の定義を見ることにする¹¹⁾。

(25) 「ウレシイ」:

《<いいこと=自分(当該の人物)を直接に益することで、それほどは実現しやすくなく、自分ではその実現を(完全には)コントロールできないこと>が起こり、あるいはその実現が間近に迫り、それに触発されて起こる<快/喜び>の感情》

「タノシイ」:

《時間の過ごし方について、心で<快>と受け止める感覚》

上の定義から分かるように、「ウレシイ」と「タノシイ」の重要な違いは、ウレシイが感情であって、心の動きに関連するのに対して、「タノシイ」は、心で<快>と感じる行為で、感情でなく、感覚であると考えられる。菊地は「ウレシイ」が触発された心の動きについての表現であり、「タノシイ」は時間の過ごし方についての表現であると主張しているが、注目すべきことは、これら二語は、典型的な類義語ではないと指摘している点である。菊地は、例えば典型的な類義語である「アガル」と「ノボル」の両語には、<<上への移動についての表現>>というような下線で示した共通項が見つけられるが、「タノシイ」と「ウレシイ」の場合には、そのような共通項がないと言う。「ただ、タノシイも、<<心で受け止める>>という要素をもつし、どちらも<快>の感覚・感情なので、意義特徴の共有が豊かに認められるという意味では、類義語と呼んでもよからう」(菊地2000:155)と述べているにもかかわらず、ある意味ではこれらの語は異質であると主張している。

菊地は、これまでの「ウレシイ」と「タノシイ」という類義語の研究の中で最も納得のいく議論を展開しているが、残念なことに、「感情」と「感覚」の定義がされていないために、「タノシイ」と「ウレシイ」の相違点がぼやけてしまっている。さらに、「アガル」と「ノボル」のような典型的な類義語と比べて「ある意味で異質で

ある」と論じながら、どのように異質であるのかについて十分な説明がないために、議論全体の明晰さを欠いてしまっている。

5.2 「ウレシイ」「タノシイ」と「アガル」「ノボル」

5.1で、菊地が「ウレシイ」と「タノシイ」は、「アガル」と「ノボル」のような典型的な類義語でないと提言しているが、その論拠が十分でないことを指摘した。ここでは、「アガル」と「ノボル」が典型的類義語であるかどうかを議論するのではなく、菊地が「ウレシイ」「タノシイ」と、「アガル」と「ノボル」が異質であると提言する理由を見いだそうと試みる。そこで、両語に共通する反義語関係から、4.2で紹介した Muehleisen and Isono (2008) が使用した ‘the Leeds Collection of Internet Corpora’ をコーパスとして、データを得、比較することから相違点を明確にしていくことにする。

5.2.1 「ウレシイ」「タノシイ」の反義語

「ウレシイ」「タノシイ」については、Kiyomi (to appear) で両語に共通する反義語関係から考察がされているので、今回関連している部分を短くまとめてみる。辞書によって違いはあるが、『反対語便覧』、『反対語対照語辞典』、『活用自在反対語対照語辞典』を参考にして総合すると、規範的であると考えられる反義語は、それぞれ以下のようなになる。

(26) ウレシイ ↔ カナシイ タノシイ ↔ クルシイ

これらの辞典等を参照して、両語に共通する複数の反義語として選ばれた語は、上の規範的反義語を含む「カナシイ」「クルシイ」「ツライ」「クヤシイ」「サビシイ」「イヤ」「セツナイ」の7形容詞である。「サビシイ」は、異種の「サミシイ」のデータも含めている。そしてコーパスでは、「ウレシイ」「タノシイ」それぞれが、これらの形容詞と反義語関係で表れる場合をカウントした。具体的には、文尾を含まない50語の間で、二語が何らかの点で意味的に対比される例の数を数えた¹²⁾。

表記にかんしては、ひらがなと漢字で書かれる可能性を考えた。漢字は、それぞれ「嬉しい」「楽しい」「悲しい」「苦しい」「辛い」「悔しい」「寂しい」「嫌」「切ない」で表記される例を扱った。従って、二語がひらがな表記の場合、一方がひらがなで、もう一方が漢字で表記される場合(2通り)、両語とも漢字表記の場合で、全

部で4通りをコーパスで調査した。

データを取った後、すべての例を検討して、意味的対立がみられないものは排除したが、それでも今回考慮に入れた中にも、以下の例文のように問題を含むものもある。

- (27) (i) 楽しい夢, 怖い夢, 悲しい夢, 訳の判らない夢
 (ii) 楽しい時は大笑いして, 悲しい映画みたら泣いて, とっても素朴で自然体。

(27i)は、「楽しい」「悲しい」以外の形容詞（「怖い」、「訳の判らない」）も対比されている場合で、(26ii)は、同じ指示物を修飾していない場合であるが、これら2例は、書き手が意識的または無意識的に、「楽しい」「悲しい」を対比させていると考えられる。

5.2.2 「ウレシイ」「タノシイ」の結果：共起の割合と分析

「ウレシイ」「タノシイ」のデータの分析結果を共起する例が多い形容詞の順に並べると以下ようになる（例数と共に括弧には全体数の割合がパーセントで書かれている）。さらに、共起する例が一番多いペアの実例をそれぞれ挙げた。

- (28) 「ウレシイ」
- | | | | | |
|---|------|---|-----|---------|
| ① | カナシイ | — | 114 | (58.8%) |
| ② | ツライ | — | 23 | (11.9%) |
| ③ | サビシイ | — | 23 | (11.9%) |
| ④ | イヤ | — | 16 | (8.2%) |
| ⑤ | クルシイ | — | 7 | (3.6%) |
| ⑥ | セツナイ | — | 6 | (3.1%) |
| ⑦ | クヤシイ | — | 5 | (2.6%) |
- 「タノシイ」
- | | | | | |
|---|------|---|----|---------|
| ① | ツライ | — | 68 | (41.5%) |
| ② | カナシイ | — | 38 | (23.2%) |
| ③ | クルシイ | — | 26 | (15.9%) |
| ④ | サビシイ | — | 15 | (9.1%) |
| ⑤ | イヤ | — | 14 | (8.5%) |

⑥ セツナイ—— 2 (1.2%)

⑦ クヤシイ—— 1 (0.6%)

(29) (i) 昔から見守ってきた作品がここまで有名になると、嬉しいような、悲しいようなそんな気分です。

(ii) サッカーを通して楽しい経験や辛い経験など様々な事を感じた。

共起する例の総数は、それほど差がなく、「ウレシイ」が、「タノシイ」より30例だけ多い。「タノシイ」の規範的な反義語は、辞典から「クルシイ」であると推測したが、データ上では、「ツライ」「カナシイ」の例数の方が多かった。しかし「ウレシイ」は、規範的反義語であると考えられた「カナシイ」が、実際にデータ上でも一番多かった。

上の結果の共起の割合に注目すると、「ウレシイ」と「タノシイ」では、共起する形容詞の一番目と二番目（「カナシイ」「ツライ」）が逆になっていることに気づく。その上、この二つの反義語の合計の割合が、「ウレシイ」「タノシイ」ともに、6割以上である。さらに、「ウレシイ」「タノシイ」間で、「クルシイ」以外の他の残りの形容詞（「サビシイ」「イヤ」「セツナイ」「クヤシイ」）の割合の違いは、すべて3%以下である。以上から、「ウレシイ」「タノシイ」の反義語関係には、共有される特徴が少なからず存在するといえるだろう。

5.2.3 「アガル」「ノボル」の反義語

次に、5.2.1で説明された調査の仕方では、「アガル」「ノボル」に取り組んだ。まず、規範的な反義語は、辞典によって違うが、総合的に考えて以下のように複数の語彙になった。

(30) アガル ↔ サガル/オリル ノボル ↔ クダル/オリル/シズム

また、辞書を参考に、「アガル」「ノボル」両語に共通する反義語として選んだのは、上の「サガル」「オリル」「クダル」「シズム」に「オチル」を加えた5種類の動詞である。

表記については、ひらがなは問題ないが、漢字は「ウレシイ」「タノシイ」の場合と比較して少々複雑である。〈上への移動〉と言う意味の「アガル」は、「上がる」と

いう表記一つであるが、「ノボル」は、「登る」「上る」「昇る」の3種類を考えるべきであるし、「オ Ril」も「下りる」と「降りる」の2種類の表記を扱った。

5.2.4 「アガル」「ノボル」の結果：共起の割合と分析

「アガル」「ノボル」のデータの分析結果を、共起する例が多い動詞の順に並べると以下ようになる。例数とともに、全体の割合をパーセントで表している。さらに、共起する例が一番多いペアの実例をそれぞれ挙げた。

(31) 「アガル」	① サガル	——	88	(88%)
	② オチル	——	6	(6%)
	③ オリル	——	4	(4%)
	④ クダル	——	1	(1%)
	④ シズム	——	1	(1%)

「ノボル」	① シズム	——	25	(50%)
	② クダル	——	10	(20%)
	③ オリル	——	9	(18%)
	④ オチル	——	3	(9%)
	④ サガル	——	3	(9%)

(32) (i) 日本では、失業率は、まだこれから上がるのであって、下がるのはいつになるかわからない。

(ii) 昔は当然太陽が昇ると同時に目が覚め、太陽が沈むと同時に就寝する。

規範的な反義語に関しては、「アガル」は、「サガル/オリル」であると推測したが、「サガル」が9割近くもあり、「オリル」は、かなり例数が少なかった。「ノボル」は、規範的反義語と考えた「クダル/オリル/シズム」が、データ上でも上位3位までを占めた。その中でも「シズム」が一番多く50%であった。

上の結果から、何が読み取れるだろうか。共起する例の総数は、明らかに差があり、「アガル」が「ノボル」の倍あるが、共起の割合に注目すると、「アガル」と「サガル」が、88%で、「ノボル」と「シズム」が共起する50%より遥かに高い。また、「アガル」は、「サガル」との共起がほとんどで、他の反義語との共起は、1割以下

と低い。それに比べて、「ノボル」は、「クダル」、「オリル」と2割ほど共起している。以上から言えることは、類義語ペア「アガル」「ノボル」の反義語関係には、共有される特徴が少ないということである。さらに、「アガル」と一番多く共起する「サガル」が、「ノボル」では、一番少なく、逆に、「ノボル」と一番多く共起する「シズム」が「アガル」では、一番少なくなっている。これは、「アガル」「ノボル」が反義語関係で対立していると考えても良いかもしれない。

5.2.5 分析比較

5.2.1-5.2.4で調査し、分析した結果、「ウレシイ」「タノシイ」と「アガル」「ノボル」の類義語ペアは、反義語関係において明確な違いが観察された。「ウレシイ」「タノシイ」ペアには、反義語の共起関係で、両語が共有する特徴が多く観察された。それとは対照的に、「アガル」「ノボル」ペアには、反義語との共起に関連して共通の特色がほとんど見つからなかった。むしろ、対立するような反義語関係であることが分かった。この結果は、類義語の「ウレシイ」「タノシイ」が「アガル」「ノボル」とは異なっているという菊地の主張を支持する証拠になると考えられる。

6. 結論

最近の反義語研究には、コーパスデータが利用され成果を上げている。本稿では、そのような反義語研究が類義語にも応用できるということを提案した。2-4節で、反義語の特徴、先行研究を概観し、学者の直感によって分類されていた研究を補うように、コーパス使用の反義語研究が多くの人々の直感を反映するデータを基に、新しい見方から反義語の機能を発見してきたことを確認した。5節では、「ウレシイ」「タノシイ」と「アガル」「ノボル」という類義ペアを反義語関係から考察した。菊地（2000）は、これらの類義語ペアは異なる性質であると述べているが、その違いについて十分な説明がされていない。今回コーパスを利用することで、反義語関係において明確な違いが観察された。「ウレシイ」「タノシイ」ペアには、反義語との共起関係で、両語が共有する特徴が多く観察されたが、「アガル」「ノボル」ペアには、反義語との共起に関連して対立するような関係が観察され、共通の特色がほとんど見つからなかった。この結果は、菊地の主張を支持する証拠になるだろうと考えた。結論として、今回の試みから提案されるのは、類義語の研究で、コーパスを利用して反義語との関連性を検討することは、類義語間の違いを知る上で意義があ

と言うことである。

註

*本稿は、教養文化研究所（2009年4月30日、於駿河台大学）で発表した論文を加筆修正したものである。

- 1) 英語で、‘antonyms’ または、‘opposites’ と呼ばれ、日本語でも「対義語」や「反対語」と呼ばれたりするが、本稿では「反義語」を使用する。
- 2) Jones (2002:5) を参照した。
- 3) 先行研究の詳細は、Jones (2002:11-20) を参照のこと。
- 4) この反義語の捉え方は、Lyons (1968) の分類（‘complementarity’, ‘antonymy’, ‘converseness’）に基づいたものであると考えられる。
- 5) 3.2で紹介した池上の分類の(4) (i) 「相補関係」と同じ関係を表すと考えられる。
- 6) Cruseは、Overlapping Antonyms（部分重複反義語）の下位に属する反義語として Privative Antonyms（欠如反義語）をあげている。これらの反義語の特徴は、否定的な評価を表す語が望まれないものの存在を表す一方、肯定的評価の語は望まれないものがないことを表す。この下位タイプに属する語はあまり多くはなく、‘clean/dirty’, ‘safe/dangerous’ など限られている。

例：? It’s still clean, but it’s dirtier than before.

It’s still dirty, but it’s cleaner than before.

- 7) Jones (2002:16-20) を参照した。
- 8) 括弧に入れた理由は、医者と患者の関係は、周辺の例であり、医者であれば、必ずしも患者がいる訳ではないからである。
- 9) 例は、Jones (2002:35-6, Appendix) を参照した。
- 10) 詳細は、清海 (2006) を参照のこと。
- 11) 本稿で扱う「ウレシイ」と「タノシイ」の意味の定義は、辞書では、次のように定義されている。

(i) 『新明解国語辞典』第5版 (CD-ROM版)

「嬉しい」：自分の欲求が満足されたと感じて、その状態を歓迎する気持だ。

「楽しい」：その状態を積極的に受け入れる気持が強く、出来ることならそれを持続したい感じだ。

(ii) 『広辞苑』第5版 (CD-ROM版)

「嬉しい」：はればれと喜ばしい。こころよく楽しい。

「楽しい」：満足で愉快的気分である。快い。

12) 文尾とは、句点が挿入されている場合に限っている。データ上では、句点がなかったり、別の記号などが用いられることもあり、2文以上の例も含まれる。

参考文献

- 池上嘉彦（編） 1996. 『英語の意味』 <テイクオフ英語学シリーズ> 大修館.
- 菊地康人 2000. 「タノシイとウレシイ」 『日本語：意味と文法の風景』（国広哲弥教授古稀記念論文集）ひつじ書房, 143-159.
- 清海節子 2006. 「感情表現の日英比較 -〈快〉感情基礎語彙を中心に-」 『駿河台大学論叢』 32:91-114.
- 西尾寅弥 1993. 「喜び・楽しみのことば」 『日本語学』 12:14-22.
- 藤田佐和子 1991. 「[たのしい] と [うれしい] -誘因と感情の時間的關係を視点として-」 『金沢大学国語国文』 16: 75-86.
- 森田良行 1996 (2001²). 『意味分析の方法』 ひつじ書房.
- 山田 進 1982 (1992⁸). 「ウレシイ・タノシイ」 國廣哲弥（編）『ことばの意味 3-辞書にかいてないこと』 平凡社, 112-120.
- Clark, H. H. 1970. 'Word Associations and Linguistic Theory' in J. Lyons (ed.) *New Horizons in Linguistics*. London: Penguin.
- Croft, Willam and D. A. Cruse. 2004. *Cognitive Linguistics*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Cruse, Alan, D. 1986. *Lexical Semantics*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Jones, Steven. 2002. *Antonymy: a corpus-based perspective*. Routledge: London and New York.
- Jones, Steven and M. Lynne Murphy. 2005. 'Using corpora to investigate antonym acquisition.' *International Journal of Corpus Linguistics* 10: 401-422.
- Kiyomi, Setsuko. (To appear) 'How are 'tanoshii' and 'ureshii' different? : an investigation of the synonymous adjectives from the perspective of their antonymous relations using corpora.'
- Lyons, John. 1968. *Introduction to Theoretical Linguistics*. Cambridge: Cambridge University Press.

- Lyons, John. 1977. *Semantics*, 2 vols. Cambridge: Cambridge University Press.
- Muehleisen Victoria and Isono Maho. 2008. (In press). 'Antonymous adjectives in Japanese discourse.' *Journal of Pragmatics*. Available online at: <http://www.science-direct.com/science>.
- Murphy, Lynne. 2003. *Semantic Relations and the Lexicon*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Willners, Caroline. 2001. *Antonyms in Context*. Lund: Lund University.

辞典

- 『活用自在反対語対照語辞典』 第4版 反対語対照語辞典編纂委員会(編) 1998 (2006⁴). 柏書房.
- 『広辞苑』 第5版 新村出(編) 1998. (CD-ROM版)
- 『新明解国語辞典』 第5版 金田一京助・山田忠雄(主幹)他 1997. (CD-ROM版)
- 『反対語対照語辞典』 第6版 北原保雄・東郷吉男(編) 1989 (1998⁶). 東京堂出版.
- 『反対語便覧』 三省堂編修所(編) 1996. 三省堂.

言語資料

- Sharoff, Serg. (n.d.) The Leeds Collection of Internet Corpora. Center for Translation Studies, Univeristy of Leeds.
<<http://corpus.leeds.ac.uk/internet.html>>.